



2月は中国の旧正月

今年の旧正月 2月14日（春節）期間の旅客輸送量が延べ25億人に上るとの予測が明らかになり、旧正月期間中は各地で学生や出稼ぎ労働者などが帰省や観光客の移動で交通機関の混雑が毎年起きています。（2010年の旧正月輸送期間は、1月30日～3月10日までの40日間。）

なんと今年の旅客輸送量は前年比7.7%増の25億4100万人に達する見込みだそうです。経済成長に伴う生活水準の向上により、飛行機利用者の増加が著しいものであります。

日本の正月は『おせち料理』がメインですが、中国の旧正月においても縁起を担いだ様々な食べ物が食卓を彩ります。『ゆとりある豊かな生活を』との願いをこめて、「余」と同じ発音の「魚」を食べたり、昔に流通した通貨と形が似ている水餃子を食べると金運上昇に期待を込めるほか、「長寿」を意味する麺類や、「子宝に恵まれる」と言われるナツメを食べるなど多岐にわたります。

さて、今月のテーマは日本と中国の経済状況の違いについてお話したいと思います。

日本と中国の経済状況

日本は不況の影響もあり各業界の企業は四苦八苦しています。いっぽう中国は？

現在中国では景気が過熱しインフレが進行しています。食物は数十パーセント値上がり、不動産は、10年前の10倍以上の値上がりをしています。この加熱を抑えるため、中国政府は金融の引き締めを始めました。

今回見聞きした中で、山東省青島市の不動産状況を少しだけ書いてみます。（これが全てではありませんが、中国の経済状況を象徴しているかもしれません。）

現在マンションの価格は、1㎡当たり10,000円から30,000円です。日本円換算を1元14円としますと、140,000円から420,000円ということになり、坪計算すると1坪約463,000円から1,300,000円となります。

更に中国と日本とではまだまだ違いがあります。

一つは共用部分もこの買取り面積に含まれ、約75%が日本で言う利用可能な面積です。もう一つは、新しいマンションは全く内装工事が成されていません。



中国情報 (INFORMATION CHINA)

従って、内装をしていないマンションの価格は日本風に計算をしますと、一坪約 617,000 円から 1,730,000 円となり、更に内装はこの価格に 20%程度が必要となります。

そうすると 1 坪当たり約 740,000 円から 2,000,000 円程度の費用になるわけで、仮に 30 坪のマンションを買うとなると、22,200,000 円のお金が必要となります。

その上マンション業者は、設計段階で売却することを禁止されたのを良いことに売のを控え、更なる値上がりを待っています。

一方、大学卒の初任給は 1,500 元 (約 21,000 円) 前後ですが、果たしてこのようなマンションが将来買えるのでしょうか？

最近、売却されたマンションは実際に入居されている (夜に電気が灯っている部屋) 率は 10%程度とされています。これは広東人、上海人、台湾人など、ごく一部の金持ちが投機で取得している場合が大多数であります。

現に中国人のお金持ち王伝福は 5230 億円、28 歳の女性で美人の楊恵妍は 5000 億円の資産を持っているなんて聞くと驚きます。これが本当に共産国なんて・・・

さて、いかが考えますか？

これを中国経済の過熱と判断するか、それともこれが当然だと考えますか？

中国の経済、不動産は今年 5 月から 10 月末まで開催される上海万博までにバブルが弾けると言われたり、内需が旺盛でまだまだ発展が続くと言われたりしています。

ただ我々が言える事は、日本人が考えているよりも圧倒的な速さで道路や高層ビルなどが建設され、発展し続けていることは事実です。

例を挙げて言いますと、青島市近郊の陸と陸を結ぶ海に架ける 3 キロメートル橋を、現在まだ工事に着工していないのに来年の 9 月まで完成させるという話があります。

これは日本人的思考方で言うと、「賭博性があるものが好きだ」、「良いものはすぐに実行し、実行後に問題点を考える」という中国人特有の『決めることが早い、すぐに実行をしなければ他に取られてしまう』という考えからかもしれません。

中国人の仕事感覚)

日本人は「目は口ほどに物を言う」「ツウと言えばカア」「奥さんにオイと言えば、はい新聞」という具合に相手のことを考え、抽象的な表現でも何を求めているかを悟り、これを「よく気がつく人」なんて表現をします。

これは長い間に島国の中で、日本人が独特の文化を育てあげてきたということです。ところが昨今のグローバルな世の中で異文化と接し、日本独特の「あいまいな表現」は全く通じず、許されないとと言っても過言ではありません。



中国情報 (INFORMATION CHINA)

勿論、中国からの研修生に「言われなくても気を回して仕事をやれ」と言っても通じません。彼らから言わせると、「私の上司が無能だ」「上司としての資格がない」「責任を回避しているのだ」と取られかねません。これは研修生ばかりでなく国際社会どの国でも当てはまります。

明確な表現で「〇〇を□□□の方法で△時まで仕上げなさい」ということが大事です。中国人は『経過や方法を大事にせず結果だけを大事にする』性格を持っているからです。

また彼らは自己主張が強いため、「自分独自の仕事方法を取る」場合が多く、均一の製品を作り続けることが不得意です。これを回避するためには、やはりハッキリと明確な言葉で仕事を指示さえすれば良い結果が得られるわけです。

春節のお願い)

新暦2月14日(日曜日)は中国最大の祝日であります。

中国ではこの日ばかりは故郷に帰省し、久しぶりの家族と共に夜通し食事をします。テーブルには魚料理や餅、餃子は欠かすことができません。

一方、日本で研修に励んでいる子たちは、そう簡単には故郷へ帰ることができません。研修生を受入れされている企業様で、何らかのお心使いを願えれば彼らもきっと喜ぶと思います。

出身者別の性格)

中国の面積は日本の25倍もあり、人口は13億人とも16億人とも言われております。また地方によってその気質も大きく異なります。

中国人同士の初対面で「老家(ふるさと)はどこ?」と尋ねることがよくあります。これは、ふるさとを聞くことによって、この人と友人になっても良いかなど性格判断の基準の一つみたいなところがあるそうです。

湖北人(武漢周辺): ずる賢い、知略に長けている。

山東人: 団結心が旺盛だ(山東省とは、和歌山県と姉妹提携を結んでいる。)

北京人: 気が小さく保守的で面子を重んじる。商売下手だが友人を大事にする。

上海人: 頭が良くて金儲けが上手だが、人情薄く狡猾チャンスに目ざとい。

福建人: 聡明すぎて悪巧みが得意。

東北人: 豪快、激情、粗暴、体が大きいけど頭が弱い。

まだまだありますが、一度研修生にこの話をしてみると面白いかも知れません。



中国情報 (INFORMATION CHINA)

三面記事)

吉林省の延吉へ行った時のことです。

延吉は朝鮮族の人たちが多く北朝鮮の川一つで接しています。中国の案内人が言うのは、「危険だから一人でウロウロするな!」「北朝鮮から来た人が沢山いるから何をするか分からない」と言うのです。

案内人：「北朝鮮では冬は寒くて仕方がないから、外出は家族が交互にします。」

私：「どうして?」

案内人：「着る服が無いから、一人が帰ってきたら服を着替え、その服を他の家族に貸し、そして借りた服を着て外出する」

私：「本当に?」

案内人：「本当です。まだまだありますよ。例えばここでは人も売っているのです。」

私：「エッ! 嘘でしょ!?!」

案内人：「嘘じゃない。若い女は 3000 元 (4,500 円) です」

私：「一晩!?!」

案内人：「一生ですよ。でもご飯は食べさせなければいけません。赤ん坊は 500 元 (7500 円)」

私：「一体、人を買って如何するの?」

案内人：「北朝鮮では食事でも食べられず餓死する人が多いから、買われた人は食事に困らない」

私：「赤ちゃんは?」

案内人：「赤ん坊の多くは売春をして生まれた子などです」

私：「買われた後どうなるの?」

案内人：「女性は売春に使われたり、お嫁さんがいない人を買われていきます。赤ん坊は足を折られたりし、わざと貧困に育てられた後に物乞いにされたりします。」

聞いて驚くばかりか背筋が寒くなり日本に生まれて良かったとしみじみ考えさせられました。

正月を迎えた日本では、不況不況と言いつつ不平不満を言っていますが、世界の中にはこんな人たちが居る事も忘れてはいけませんね。

組合ホームページ：<http://ibia.or.jp/>

組合スタッフのブログ：<http://ibia.blog6.fc2.com/>